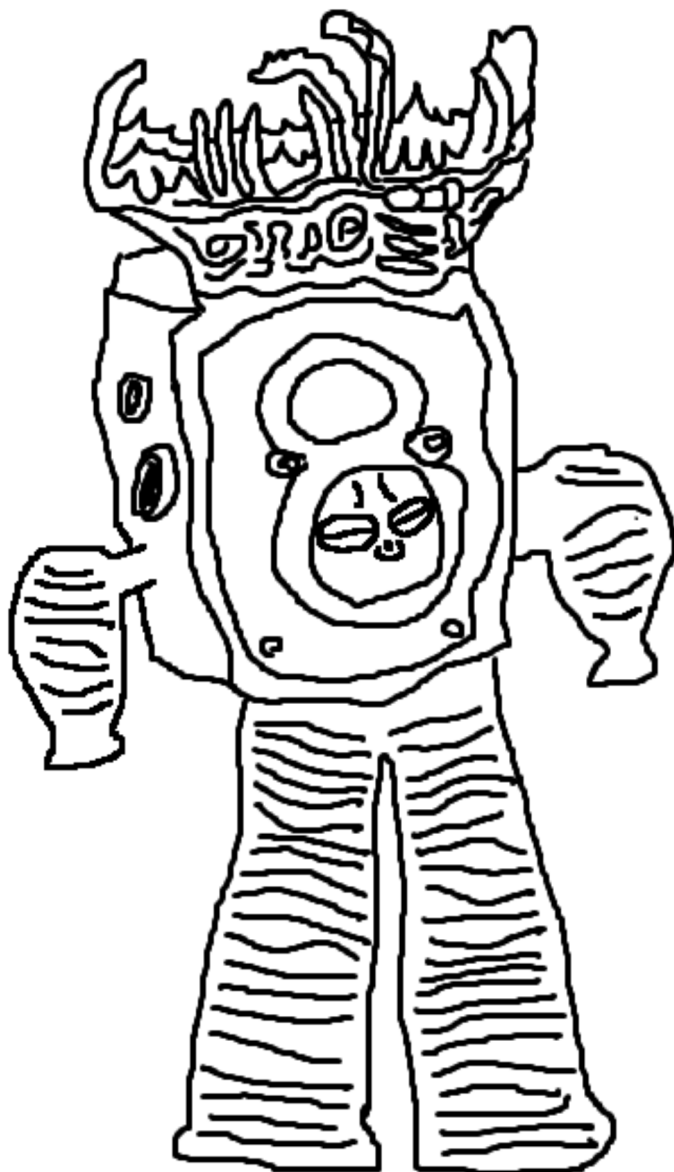


学芸員によるほぼ月イチ

ギャラリートーク

のお知らせ



「縄文⇔現代⇔土門拳」展
非公式キャラクター
「土器土器カメラくん」

*二眼レフカメラのファインダー部分が火炎土器みたいに、
テイクレンズの部分が遮光器土器みたいに、
腕が山形県遊佐町で出土した「杉沢の土偶」みたいに、
脚が山形県舟形町で出土した「縄文の女神」みたいに
なったキャラクターですが、深い意味はありません

「縄文⇔現代⇔土門拳」

土門拳が撮った写真を観ることは、「かつてどのような時代があったか」を知ることであると同時に、「土門拳がその時代のことをどのように見ていたか」を知ることでもある気がします。太古から現代に至る歴史を、土門の写真を手掛かりに皆さんと一緒に辿れたら素敵な気がします、いかがでしょう。

2025年 11/8 (土) / 2026年 1/17 (土)

いずれも14:00ー (40分程度) / 要予約・参加無料 (要入館料)

ご予約はお電話 (0234-31-0028) もしくは窓口に美術館窓口にて。

担当学芸員：田中耕太郎

東京生まれ。慶應義塾大学文学部美学美術史学専攻卒業。都内で音楽・古美術・現代美術・執筆業・チラシ配りなどの仕事に携わったのち、2021年より現職。仕事以外の時間は、作曲・愛犬（元野犬）の歯みがき・塊根植物の栽培などに没頭。2021年頃、土門拳旧蔵の土偶について調べているうちに土偶みたいなものを自分でも作ってみたくなり、現在もたまたに土偶みたいなものを作っており、それがたまたに鶴岡でガチャガチャに入っている。



土門拳写真美術館
Ken Domon Museum of Photography